



基本理念

「すべての子どもが、いつでもどこでも自分から読書に親しむことができる環境をつくります」

基本の方針

- (1) 読書活動の環境整備・充実
- (2) 読書に親しむための機会の提供
- (3) 人材の育成と関係職員の資質の向上
- (4) 啓発活動と推進体制の整備

現状と分析

- 読み聞かせにより成長に良い影響があると認識されている。
- 子どもたちの読書への興味・関心度は、一定の水準を保っているものの、減少傾向にある。
- 学年が上がるにつれて読書量が減少している。
- 過去の各段階で読書量が多く、読書習慣が形成されている子どもほど、現在の読書量も多い傾向がある。

第3次計画の取組の成果と課題

- ◇図書館の開館時間や図書コーナーの拡充など読書環境の整備と利用機会の充実
- ◇地域や幼稚園・保育所等での読み聞かせなど読書に親しむ機会の提供
- ◇学校図書館の情報化、資料の充実による読書活動・学習活動の環境整備
- ◆魅力ある蔵書構成の整備や各種取組による図書館利用の拡大
- ◆図書館団体貸出による関係団体の読書環境の充実
- ◆図書館職員や学校司書、ボランティア等の養成と資質の向上のための学習機会の拡充
- ◆本に出会うきっかけとなるブックリストの作成など啓発活動と推進体制の整備

◇成果 ◆課題

読書習慣形成のための取組

発達段階に応じた効果的な取組

子どもの発達段階を大きく、

- 乳幼児期（0～6歳）
- 小学生期（6～12歳）
- 中学生期（12～15歳）
- 高校生期（15～18歳）に分け、

各期の特徴に応じた効果的な取組を第4次計画の各領域で進める。

主体的・対話的な読書活動の推進

本の紹介コンテスト、ビブリオバトル(※)など、読みを深め、他者へ読書の楽しさを伝える活動を通して、読書習慣の形成を目指す。

(※)参加者同士で本を紹介し合い、最も読みたいと思う本を投票で決定する催し

第4次計画の主な取組

◎取組の方向性

- 発達段階に対応した読書環境・資料の整備充実と読書活動の工夫
- 関係機関・団体等との連携による研修機会の拡充と啓発活動の推進

図書館

- 発達段階に対応した必要資料の整備
- 他者に読書の楽しさを伝える行事の開催
- 関係団体を対象とした研修等の拡充
- 各年齢に応じたブックリストの作成
- 高等学校関係団体等との連携事業の実施

学校

- 各学年の興味・関心に応える資料の充実と工夫
- 支援を必要とする子どもが利用しやすい環境整備と資料の充実
- 友人同士で本を薦め合うなどの読書活動の実施
- 学校司書への研修機会の充実

幼稚園・保育所等

- 読書環境の整備、団体貸出制度の利用拡充
- 発達段階に応じた読書活動の工夫
- 家庭での読み聞かせの推進
- 職員に対する研修の充実

家庭・地域

- 地域の読書環境整備、団体貸出制度の利用拡充
- 地域で活動する読書関係団体の支援
- 発達段階に応じた読書活動の工夫
- ボランティア等に対する研修の機会の提供

協働・支援
連携・協力